
恋変リバーシ

深見志麻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋変りバーシ

【Nコード】

N9076H

【作者名】

深見志麻

【あらすじ】

現代コメディ。高校生男女による緩い会話です。少しだけ恋愛要素があります。

（前書き）

セリフのみで進む話です。こうした形式がお嫌いな方はお避け下さい。

また、いわゆる少女漫画が純粋に好きな方には少しご不快に感じるかもしれない表現があります。あしからず。

「恋は一生モノにならない方が多いよね」

「いきなり何だ」

「それに比べたら友情は一生モノになる確率ずっと高いじゃん？」

「人の話聞けって」

「あたしねー、トヨちゃんとは良い友情築けそうだと思ってたのよ」

「・・・ああ、確かに仲良いよな、お前と豊川」

「恋愛じゃなくて友情！分かる？」

「男女間の友情って成立しづれえんだよな・・・」

「友達だよねと暗示をかけ続ければ一線を越えることはまず無いの！」

「それって成立しづれえつつーことだろ。ってかそれって友達超えることに心理的ストップ掛けるだけで惚れることの歯止めにはならんじゃんよ」

「そんなにあたしをいじめるのが楽しいかサワちゃんよ！」

「サワちゃん言うな。・・・まあ、男女が居ると子孫を残したいつつー遺伝子の欲求が生まれるのは自然じゃねえの？」

「その遺伝子を超えて異性間の友情を築ける動物が居るのに人間が出来ない筈無い！」

「そーか、で、豊川との友情に亀裂が入った？」

「その一歩手前くらい・・・」

「あ？」

「トヨちゃんに彼女が出来たのよ」

「ああ、そんなこと言ってたな、あいつ」

「可愛い子なのよ、女の子ーって感じ。で、やっぱり可愛いその子の友達が周りに居るわけよ」

「それで？」

「『豊川君はエリの彼氏なんだから近付かないで!』って言われた・
・・・・」

「信用無いのな、お前」

「親しくないんだ、信用以前の問題だ!」

「女って怖えーの」

「あ、トヨちゃんに言っちゃ駄目だよ、今の」

「それほどデリカシー無く見えるのか、俺」

「どーして清く正しい男女間の友情に皆さんこんなにも理解が無い
んでしょうか! はい、沢村君!」

「スルーか・・・・。ほら、あれだ、男女間の友情がいつの間
にか恋愛感情に変わるっつーのは漫画の王道らしいし」

「おおう、なるほど! じゃあ早速フロム友情トゥー恋愛な漫画撲
滅運動開始!」

「一人でやれや」

「冷たい・・・・・」

「で、お前はとうしたいんだ?」

「トヨちゃんとの友情を継続させたい! 周囲になるべく波風立て
ずに」

「ならその彼女ときちんと話しあえば?」

「『私は絶対豊川君にフォーリンラブなんてことありえないから友
達づきあいさせて』って?」

「・・・・・変だな」

「変でしょ?」

「じゃあやつぱあれだろ、豊川の意味を聞くべき」

「あたしと友達してたいかって?」

「ああ。変じゃないだろ?」

「うん、変じゃない。・・・・クサいけど」

「ま、彼女持ちと友情を保つんざ至難の業だろ」

「そう、そこなのよ! そこでね、あたしは名案を思いついた!」
「何だ」

「あたしが彼氏持ちになればよっぽど大丈夫くない？」
「・・・・・・・・・・まあ、フタマタに見えなきやな」
「やっぱ名案だよ、うん」
「ってか、居るのか、好きな奴」
「ノープロブレム！　ってわけでサワちゃん、付き合って！」
「・・・・・・・・・・は？」
「ああ何そのすっごい怪訝そうな顔！」
「いや正直意味不明」
「じゃあ改めて言おう、サワちゃん、あたしと付き合って！」
「・・・・・・・・・・豊川のために？」
「あたしのために！」
「・・・・・・・・・・お前さ」
「サワちゃんが好きなんです」
「・・・・・・・・・・」
「むしろトヨちゃんの方が口実、みたいな」
「・・・・・・・・・・今までの話、全部前置き？」
「うん」
「お前、恋愛は一時で友情は一生つつてただろうが」
「別にトヨちゃんがグラスでサワちゃんが紙コップって言ってるわけじゃないよー？　男女間の友情なんて一生モノっていう付加価値が無きゃリスクすぎて大抵の奴は嫌がるんだもん」
「・・・・・・・・・・お前と付き合うのも大概リスクだと思うんだが」
「え、今振られた？　あたし振られた！？」
「や、そういう意味でなく」
「おう、ラッキー」
「・・・・・・・・・・お前、本当に俺のこと好きなんだろうな」
「はっはっは、あたらしい告白の形式を考えた末こうなったのだ」
「高笑いかよ」
「じゃあ何かねサワちゃん、あたしが放課後君を呼び出してだね、

頬を染めて目を潤ませて『沢村君、実はずっと好きだったの』ってやってみろ」

「・・・・・・・・・・違和感バリバリ」

「何てこった！ 伝統的少女漫画に則って描写してみたのに！」

「少女漫画撲滅したいんだろうが」

「呉越同舟という言葉を知らんのかね、サワちゃんよ」

「何で無意味に絡み口調なんだよ」

「好きだぜサワちゃん！」

「お前以外だったら告白にそのテンションってのがありえねえ・・・・・・・・」

「あたしだから良いって分かってんじゃん。ってかサワちゃん、君は何回女の子に告らせる気かね」

「・・・・・・・・・・あー」

「ほらほら振るなり食うなり好きにして」

「や、何で俺そんなに手え早くなってるの？」

「じゃあ領け」

「命令か」

「突っ込んでないで早くやるー」

「・・・・・・・・・・ああもう、じゃあ乗ってやる」

「せんきゅー。じゃあまた明日」

「おう、また明日・・・・・・・・・・って、これって正しい形なのか？」

（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9076h/>

恋変リバーシ

2010年10月8日15時22分発行